

生光學園

効率よく得点し快勝

池田 右腕の制球乱れる



池田対生光学園 2回表、生光学園1死満塁、小南が左前適時打を放ち先制する

[illegible]

撃つて二つクロクド打った。アキは、
「手を徹底するぞ」と指示。
二回、いきなりチャンス
に四死球など、四死球な
で一死満塁とすると、1
回戦以来の先発出場とな
る。今大会初先発で2番
に起用された李保も期待
に応えた。2点リードの
九回、一死二塁で後
手。今、今度こそ勝利
の矢張り支えてくると
の思いを胸に試合合
入。投手に勢いを増し
、冷静に

（木村恭明）

も信頼を寄せる一番言
て切り替えた。
「積極的に振っていか
ない」と攻める「バ」を
最良戦略は「正」を最
運んで一点を先取。「三
番走者が足の速い井手か
にかつて、ゴロなら本塁
にたつてくられると思
い低い打球を意識した」
と笑顔を負せた。

ていた、シート回転
のルールを「フオー」
ボールを有効に使うた
決勝進出は4度目。
去る回は惜しくも敗れ
た。吉田洋児は「つた
まで出場できなかった

生光学園
生光が143.3mの直
撃をかわす。生光は
143.3mの直撃を
かわす。生光は143.3mの直撃をかわす。

れた。ミスがあつたかな
かつたかの差だつた。
生光学園空座敷(エ
ース興業をリード。四、
内角をうまく使って抑え
回して夫角につまみ、会

▽同(第1試合)

【評言】生光學園が7安打6得点、効率よく攻めて快勝した。一回、2四死球と内野安打でつかんた1死満塁の好機に、小南が左前打を放ち先

ンがよく抑えた。池田は右腕篠原が制球の乱れを突かれて失点した。打線も得点した四、五回以外はチャンスがほとんどなかった。

生光学園・幸島博之監督 打線が大きな当たりを狙わず、鋭く振ってこられた。今大会で初めて完

きよう決勝

投した奥濱は、最後まで粘り強く投げた。決勝だからといって意識せず、普段通りに臨みたい。

池田・井上力監督 打ミスがあり、流れを切ら

てなかったことが残念。二回の4失点が大きかった。追いついて逆転しなかったが、攻守で手痛めちゃった。

生化学空間座標勇氣（一）
生化学空間座標勇氣（二）
生化学空間座標勇氣（三）
生化学空間座標勇氣（四）
生化学空間座標勇氣（五）

コンパクトな打撃奏功

生光学園ベンチは当原に対し、前半に球数を多く投げさせ、後半に勝負

負をかけるプランを立て
ていた。しかし二回、最
球に振り負けず、左前に

が、初めて9回を投げ
り6安打4失点。封印

生光学園

【打撃成績】

位置	氏名	試合数	打数	安打	打点	一塁	二塁	三塁	四塁	犠打	盗塁	失策	打率
⑧	吉田	4	12	5	5	0	1	1	5	0	2	1	.416
⑨	田保	4	15	1	1	0	0	0	1	0	0	0	.200
⑩	安井	4	15	3	4	0	0	0	2	0	0	0	.200
⑪	中久	4	15	5	4	0	0	0	1	0	0	0	.333
⑫	瀬保	4	14	4	3	0	0	0	2	0	0	0	.285
⑬	大空	4	12	3	3	0	0	0	1	0	0	0	.250
⑭	小久	4	11	3	2	0	0	0	2	0	0	0	.272
⑮	奥木	4	11	5	7	1	0	0	1	0	0	0	.200
⑯	森村	4	13	3	1	0	0	0	0	0	0	0	.285
⑰	谷口	4	13	3	0	0	0	0	0	0	0	0	.000
⑱	春藤	4	13	3	0	0	0	0	1	0	0	0	.000
⑲	渡辺	4	13	3	0	0	0	0	0	0	0	0	.000
⑳	岸田	4	13	3	0	0	0	0	0	0	0	0	.000
㉑	石田	4	13	3	0	0	0	0	0	0	0	0	.000
計		17	30	23	1	1	1	1	19	21	8	5	.256

【投手成績】

氏名	試合数	投球回数	被安打	奪三振	与四球	ボーク	暴投	自責点	防御率
奥濱	4	26	19	25	12	0	0	7	2.42
春藤	1	8	5	6	2	0	0	3	1.12
計	3	34	24	31	14	0	0	10	2.11

阿南光

【打撃成績】

位置	氏名	試合数	打数	安打	打点	一塁	二塁	三塁	四塁	犠打	盗塁	失策	打率
⑧	萩野	3	12	5	5	0	0	0	2	0	0	0	.416
⑨	島崎	3	10	1	1	0	0	0	2	0	0	0	.500
⑩	矢野	3	8	3	2	0	0	0	1	0	0	0	.375
⑪	高木	3	11	2	1	0	0	0	1	0	0	0	.181
⑫	岡田	3	13	4	1	0	0	0	1	0	0	0	.307
⑬	岩井	3	9	4	1	0	0	0	2	0	0	0	.111
⑭	田山	3	13	1	0	0	0	0	4	0	0	0	.333
⑮	上陸	3	9	2	0	0	0	0	2	0	0	0	.222
⑯	岩村	3	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	.000
⑰	木村	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.000
⑱	直江	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.000
㉑	津路	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.000
計		3	90	26	10	5	0	0	15	18	11	3	.288

【投手成績】

氏名	試合数	投球回数	被安打	奪三振	与四球	ボーク	暴投	自責点	防御率
森山	3	27	16	25	9	0	0	1	0.33

阿南光エース VS 生光学園打線

決勝の見どころ

強豪校を相手に3試合を投げ抜き、1点しか取られていない阿南光の森山を、生光打線がどう攻略するかが最大の焦点となる。

森山は準決勝の徳島商戦で初失点したが、これまで力で抑え込んできた。最速144km/hの直球に加え、直球の軌道のまま外角に曲がり落ちる変化球で打ち取っている。右打者にはツーシーム、左打者にはカットボールを有効に投げ分けている。

生光学園打線は、準決勝で池田の本格派右腕篠原の直球を早いカウントから狙って攻略した。森山に対してもストライクゾーンを絞って甘い球を捉えたい。打率4割超の1番吉田の出塁が一つのポイントとなりそうだ。チームは準決勝までの4試合で14盗塁を決めており、左腕を相手に盗塁やエンドランでどれだけ果敢に仕掛けられるかが注目される。

生光学園の右腕エース奥濱は、140km/h近い直球のほか、カーブ、スライダー、フォークボールなど多彩な変化球を投げる。阿南光は

変化球をしっかり見極めることが得点の鍵を握る。攻撃のリズムを切らさないためには、7番森山を除いてやや当たりが止まっている下位の奮起も欠かせない。

1週間500球の投球制限により、生光学園の奥濱が決勝で投げられる球数は最大で147球。これまで3試合に登板している右スリークオーター春藤の救援も考えられる。一方、第2シードの阿南光は試合日の間隔が空いており、森山に投球制限の心配はない。ただ3試合連続で完投しており、疲れの蓄積は否めない。どちらが先取点を奪って主導権を握るか。甲子園を懸けた頂上決戦の重要なポイントとなりそうだ。(木村恭明)